

FM バックキャスト研修 気仙沼市立病院報告



未来型医療卓越大学院プログラム

第6期生、5期生 Aグループ

① 授業前の知識

A グループのメンバーのバックグラウンドとしては、医学系研究科1人、生命科学研究科1人、社会学研究科1人であり、医学系研究科のメンバーが、実際に気仙沼市立病院に勤務経験があった。医学系研究科のメンバーも実際に働いていた時とは違う観点から見る事ができたと語っていた。

② 授業の目的

現在、日本国は全国的に高齢化が進んでいるが、特に気仙沼市立病院がある気仙沼市のような人口の少ない地域では高齢化が進み、全国的に見ても高い高齢化率である。

そのような地域病院には現状、どのような課題が存在し、それらを解決するためにはどのような策があるかを考えることを目的に研修を行った。

③ 到達目標

ASU 研修で学んだバイオデザイン手法を活かし、課題を設定し、更に解決策を模索すること。

地域医療に対して自分自身の研究を活かすことはできないかを考えること

④ 授業内容

授業は以下の日程で行われた。

	7月22日	7月23日	7月24日	7月25日	7月26日	
	月	火	水	木	金	
	会議室1	会議室1	会議室1	会議室1	会議室1	
8:30	移動 8時15分 仙台発 10時38分 気仙沼 市まち・ひとしごと 交流プラザ着 11:00 病院集合 ※オリエンテーション・自己紹介	講義 病院とは (菅野先生)	岩井崎 伝承館	講義 「臓器移植」 (菅野先生)	プレゼン準備	
9:00		院内見学 総務課 薬剤部 内視鏡 リハビリ 救急外来 外科病棟				透析見学 11時～
10:00						
11:00						
12:00						
13:00	講義 地域医療講義 (星先生)	講義 WOC (小野寺さん)	在宅医療見学※	手術室見学	学生発表 フィードバック	
14:00	循環器講義 (尾形先生)	感染管理室 (星さん)	本吉医院 斎藤先生	麻酔導入 手術見学		
15:00	院内見学 総務課 検査部 病理部 リニアック 放射線 部	地域医療連携 (岩淵さん)				
16:00		がん (平宇先生)				

⑤ 研究や仕事などに活かせる点

A：地域医療に携わる様々な立場の方の働きを実際に見学し、病院や地域に対する生の声を聞くことで、実際に働いていた時とは違った俯瞰した視点で、小児の地域医療を見つめ直し、地域に対して自分は何ができるのか、未来型医療をどのように実装していけば良いか考えるきっかけとなりました。

B：これまで日本の地域社会に関する知識は、主に研究室の仲間の研究を通じて得たものでしたが、今回の実習を通じて、人口減少が進む地域での医療の現状を直接見ることができました。また、現場での具体的なニーズも理解できました。今後、社会学の知識を活かして、こうした課題の解決に取り組んでいきたいと考えています。

C：スピリチュアルケアの実践について、地域性のコンテクストを注意する必要があることを理解した。地域ごとに独自の文化があり（漁業に関する死生観、地域における長男が親をケアする義務があることなど）、現実ケアを実践する際多くの制限がある（人手不足など）。その地域性を理解するため、実際その地域に行き、フィールドワークをする必要があると意識した。

D：高齢化が進む中で、高齢者を対象とする医薬品の研究は益々必要性が高まる。高齢者がより必要としている医薬品を生み出せるように今回の研修で必要性が高いと感じた疾患の研究を行いたい。

⑥ 影響を受けたこと

A：在宅診療の齋藤先生の講義や往診の見学では、実際に地域に根ざして診療を行うことはどういうことなのか、個人の病気をみるのではなく街全体をみることの重要性を学びました。そういった中で、幅広くある一定以上のスキルを身につけることが地域医療においては求められることを学びました。

B：義を通じて、高齢化が進む中で病院運営が直面する、予想外の細かな問題について学びました。例えば、若者に比べて高齢者の免疫力が低いため、若者には影響を与えない細菌でも、高齢者には致命的な影響を与える可能性があることを知り、より厳格な滅菌対策が必要であると認識しました。

C：吉本地域病院に実習した時、在宅訪問に行き、患者たちの実際の様子を見て、命の重さをよく感じた。そして、地域の医者として、地域の状況をよく理解し、齋藤先生の様子が印象だった。

D：研修前は、訪問医療は時間効率が悪く、人手が少ない現代においてなくしていくべき医療法であると考えていた。しかし、実際には患者の寿命だけでなく健康寿命を延ばすためにも訪問医療は重要な役割を果たしており必要性が高くなくすべき医療ではないと感じたこと。

⑦ 来年度以降の改善点

A：医学系研究科のバックグラウンドでは、手術見学は地域と都市部で手術内容や設備も特に変わらないので見学時間が長いと感じました。また、社会福祉士の岩渕さんから地域医療連携の講義がありましたが、講義ではあまり実感を持って学ぶことができなかったため、実際に地域医療連携室の見学や行政との関わりなどを active に勉強できれば地域医療をもっと学ぶことができると感じました。

B：気仙沼の医療体制については大まかに理解でき、また、記念館の見学を通じて大震災当時の状況も知ることができました。しかし、気仙沼の歴史や風俗については十分に学べなかったと感じています。今後は、関連する講義や見学の機会が増えることを期待しています。

C：今回はなかなか気仙沼地元の人との交流がすくなかった。先生たちは地元の出身ではない方が多いようです。地元の人々がどのような生活を送っているのか、心のケアする際配慮すべき要素を聞くことが難しかった。何らかの形に地元の人々と交流する機会を出来たらいいのではないかと考えた。

D：講義で学んだことと見学する場所があまり関連がない場合が多く、見学先で詳しく理解することが難しかったため、来年度以降は講義と見学に関連性をもっと持たせるべきであると考えます。

⑧ 授業の限界

A：地域医療の現場を普く見学することに焦点をおいた実習であったため、課題を抽出した後のインタビューやデータ集めの時間が少なく限られた時間で課題を深掘りするのは難しいと感じました。一方で ASU 研修を経た後の本実習であったためデザイン思考の過程を自分の力で実際に復習する良い機会となりました。

B：今回の研修を通じて、気仙沼の事例から日本の地域医療における問題点を見出そうとしましたが、気仙沼の経験が必ずしも日本の他の地域を代表するものではないと感じました。今後、他の地域も訪問し、より幅広い視点から地域医療の課題に取り組む機会があればと思います。

C：医療従事者をケアする際、従事者たちの悩みを聞くことについて、短い交流の間に聞くことは難しいだった。そこは現実的に解決することが難しいところであり、長い間のフィールドワークにより、従事者たちと信頼関係を作る必要があると考える。

D：患者の話聞く機会が少なく、訪問診療がなぜ必要なのか、入院しない理由は何なのかなどを実際に患者や患者家族にインタビューできず、医療従事者から聞いた情報のみで考察する必要があったこと。

⑨ まとめ

気仙沼市立病院での 5 日間を通して、実際に地域医療の現場でどのような課題がある

のか、患者さんが求めているものが何で、医療従事者が求めているものは何なのかを考えた。4人それぞれバックグラウンドが違い、国や自分が研究している分野の違いなどから様々な意見・考えのもと地域医療と高齢化について深く理解し考えることができた研修であった。